

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本北小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	64人	算数	64人	理科	64人
第5学年	国語	76人	算数	77人	理科	77人

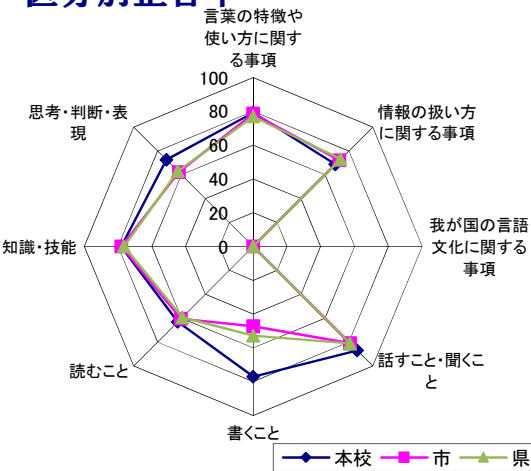
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	79.2	78.6	76.9
	情報の扱い方にに関する事項	68.8	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	87.1	81.0	81.1
	書くこと	77.0	47.2	52.8
	読むこと	63.1	60.5	59.3
観点	知識・技能	78.1	78.0	76.5
	思考・判断・表現	72.6	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

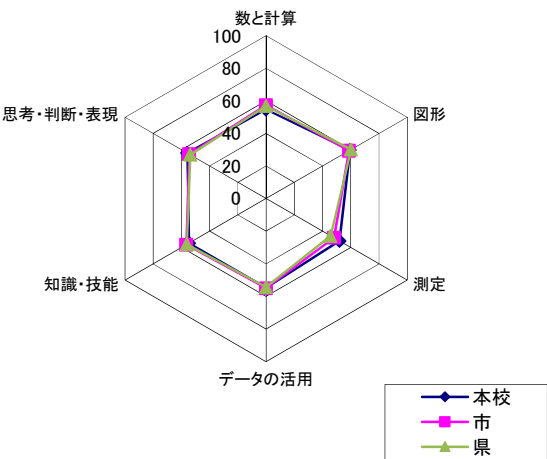
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。 ○第3学年までに配当されている漢字を正しく書くことができるかどうかをみる設問の平均正答率は57.8%であり、県の平均正答率を13ポイント上回っている。 ○第3学年までに配当されている漢字を正しく読むことができるかどうかをみる設問の平均正答率は89.6%であり、県の平均正答率を1.1ポイント上回っている。 ●文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかどうかをみる設問の平均正答率は59.4%であり、県の平均正答率を3.5ポイント下回っている。	・家庭学習で漢字練習を行う際、その漢字を使った熟語を自分で探しながら練習したり、短文に習った漢字を使いながら練習したりするなど、工夫して取り組めるようにする。 ・文法を意識した「短文づくり」などを取り入れ、主語と述語を活用する機会を増やしていく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均正答率よりやや低い。 ●国語辞典の使い方を理解し、使うことができるかどうかをみる設問の平均正答率は68.8%であり、県の平均正答率を4.3ポイント下回っている。	・国語辞典の使い方を確認したり、国語辞典を使って言葉の意味を調べる機会を意図的に設けたりしていく。
我が国の言語文化に関する事項		
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均正答率より高い。 ○相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話すことができるかどうかをみる設問の平均正答率は92.2%であり、県の平均正答率を10.2ポイント上回っている。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる設問の平均正答率は92.2%であり、県の平均正答率を0.6ポイント下回っている。	・インタビュー活動などを通して、要点を押さえながら話を聞く機会を設けるようにする。 ・話し合い活動では、話し合いのポイントを示し、中心となる内容を意識しながら話し合いを進めることができるようにしていく。また、司会を務める経験を全員にさせ、話し方や話し合いの進め方を工夫の仕方を学習する機会を設けていく。
書くこと	平均正答率は、県の平均正答率より高い。 ○自分の考えを明確にして文章を書くことができるかどうかをみる設問の平均正答率は81.3%であり、県の平均正答率を25.1ポイント上回っている。 ○自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことができるかどうかをみる設問の平均正答率は81.3%であり、県の平均正答率を25.6ポイント上回っている。	・作文の際には、条件を明確に示し、文章の内容を整理しながら書くことができるようにしていく。さらに、段落の役割について確認することで、段落を分けながら分かりやすい文章が書けるようにしていく。また、書いた作文を児童同士で読み合う時間を設け、書いた作文が指定された条件を満たしているかを確認し、修正できるようにする。
読むこと	平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。 ○登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることができるかどうかをみる設問の平均正答率は89.1%であり、県の平均正答率を15.0ポイント上回っている。 ●登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像することができるかどうかをみる設問の平均正答率は51.6%であり、県の平均正答率を4.2ポイント下回っている。	・物語文では、登場人物の気持ちや場面の様子を叙述を基に捉えるよう促すことで、叙述に即して物語を読み取る力を高めていく。 ・物語を読む機会を増やしたり、感想を伝え合う時間を設けたりすることで、文章を読むことに慣れさせ、想像力を豊かにしていく。

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	54.7	57.4	56.9
	図形	59.4	58.7	60.1
	測定	52.0	48.1	45.7
	データの活用	54.7	54.9	54.3
観点	知識・技能	54.5	56.6	56.2
	思考・判断・表現	55.9	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

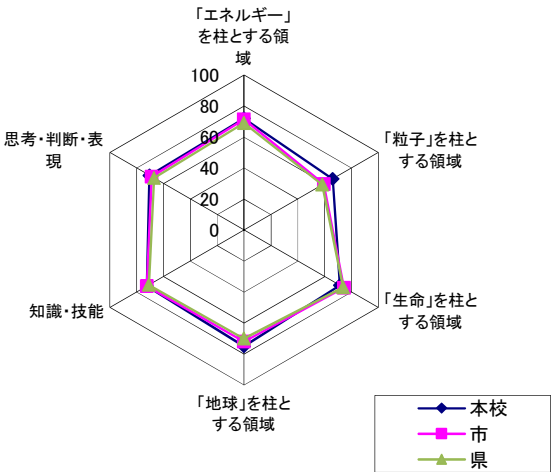
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均正答率よりやや低い。 ○小数のしくみや表し方を理解しているかどうかをみる設問の平均正答率は93.8%で、県の平均正答率を3.8ポイント上回っている。 ●分数の表す大きさを理解しているかどうかをみる設問の平均正答率は57.8%で、県の平均正答率を12.0ポイント下回っている。	・分数の概念を数直線や図を用いて視覚的に分かりやすくしたり、1を何等分したうちのいくつ文かを示して、分数についての基礎・基本の定着が図れるようにしたりする。 ・朝の学習や家庭学習等を活用して、繰り返し計算問題に取り組む機会を確保するとともに、今後も習熟度別学習を行うことで、個に応じた指導の充実を図る。
図形	平均正答率は、県の平均正答率とほぼ同じである。 ○球の半径や直径を利用して長さを求めることができるかどうかをみる設問の平均正答率は57.8%で、県の平均正答率を1.2ポイント上回っている。 ●正三角形の性質を理解し、作図することができるかどうかをみる設問の平均正答率は76.6%で、県の平均正答率を1.2ポイント下回っている。	・正三角形をはじめとする様々な図形を描いたり、図形の性質を問う課題に取り組ませる機会を増やしたりすることで、図形についての応用力を高められるようにする。
測定	平均正答率は、県の平均正答率より高い。 ○重さを、基準量のいくつ文かで考え、説明することができるかどうかをみる設問の平均正答率は54.7%で、県の平均正答率を9.0ポイント上回っている。	・「重さ」については自分の身近な問題として取り組むことができるように日常生活と結びついた問題を提示したり、既習事項を復習する機会を設けたりすることで、知識の定着を図る。また、表に示された情報を正確に読み取り、計算できるようにする。
データの活用	平均正答率は、県の平均正答率とほぼ同じである。 ○目的に合わせて選んだ棒グラフについて、その棒グラフが適切である理由を選ぶことができるかどうかをみる設問の平均正答率は48.4%で、県の平均正答率を5.8ポイント上回っている。 ●二次元の表から傾向を読み取ることができるかどうかをみる設問の平均正答率は56.3%で、県の平均正答率を4.4ポイント下回っている。	・二次元の表から様々な情報を正確に読み取り、それを基に気づいたことを話し合ったり文章に表したりすることで、課題についての考えをまとめられるようにする。 ・問題の文章で重要な言葉に線を引き、何を問われているのか確実に捉えられるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	72.0	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	66.0	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	71.4	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	75.0	72.0	70.1
観点	知識・技能	72.4	72.5	70.9
	思考・判断・表現	70.5	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。 ○「風とゴムの力のはたらき」の、輪ゴムの数と車が動く距離の関係を適切に述べた文章を選ぶ設問の平均正答率は95.3%で、県の平均正答率を6.0ポイント上回っている。 ●「電気で明かりをつけよう」の、豆電球に明かりがつく回路の組み合わせを選ぶ設問の平均正答率は65.6%で、県の平均正答率を6.7ポイント下回っている。 ●「磁石の性質」の、磁石につくものの条件についての設問の平均正答率は51.6%で、県の平均正答率を2ポイント下回っている。	・予想や考察の時間を十分に確保する。 ・身近なものと関連付けて考えさせたり、まとめを自分の言葉で書くことができるようにしたりすることで、単元全体の学習内容の理解を深めることができるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均正答率より高い。 ○「もの」と重さ」では、全ての設問で県の平均正答率を上回っており、特に粘土の形と重さの関係について提示された予想に沿う結果を選ぶ設問の平均正答率は43.8%で、県の平均正答率を16.8ポイント上回っている。	・少人数で班を構成し、一人ひとりが実験に関わるようにすることで、課題について実感を伴った理解を促せるようにする。 ・実験結果について、グラフや図に表す機会を設けて数値を正確に読み取ることができるようにする。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均正答率よりやや低い。 ○「昆虫の育ち方」の、モンシロチョウの卵と幼虫についての設問の平均正答率は92.2%で、県の平均正答率を2.8ポイント上回っている。 ●「植物の育ちとつくり」の、ホウセンカが育つ順に図を並べ替える設問の平均正答率は50.0%で、県の平均正答率を13.1ポイント下回っている。	・問われていることに線を引くなどして、問題を正しく捉えて答えることができるようにする。 ・さまざまな種類の昆虫や植物について観察する機会を多く設け、観察の視点を示して比較しながら観察したり特徴や育ち方を調べたりすることを通して、成長過程の違いについて理解できるようにする。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。 ○「光のせいしつ」の、日光を重ねて当てた場所のうち、同じ温度になる箇所を答える設問の平均正答率は71.9%で、県の平均正答率を13.5ポイント上回っている。	・実験や観察、考察の時間を十分に設け、実験・観察の技能の向上を図るとともに、結果から考えられることを自分の言葉で記述することができるようにし、学習内容の理解を深められるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している。」「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり広げたりすることができている。」の肯定的回答の割合は、県の平均を上回っている。今後も学習課題に応じた話し合い活動の形態を考えながら、児童自身の学びを深めていけるようにする。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている。」の肯定的回答の割合は71.6%で、県の平均を10ポイント近く上回っている。今後も授業の中で効果的にICTを活用し、児童のICTを活用する能力を高めるとともに、目的意識をもって情報を選び、必要な情報を得る力を養っていく。

○「勉強していて、『不思議だな』『なぜだろう』と感ずることがある。」「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」の肯定的回答の割合は、県の平均を上回っている。興味関心をもって意欲的に学習に取り組んでいることが分かる。今後も継続して解決の必要性のある授業を展開するとともに、粘り強く解決に向けて学んでいけるように支援していく。

○●「家で、自分で計画を立てて勉強をしている。」「家で、学校の授業の予習をしている。」の肯定的回答の割合は、県の平均を上回っている。一方で、「家で、テストで間違えた問題について勉強をしている。」については県の平均をやや下回っている。今後も各学級で家庭学習に関する取組を継続したり、家庭学習強化週間などを活用したりして、家庭と連携し、習慣化を図っていく。

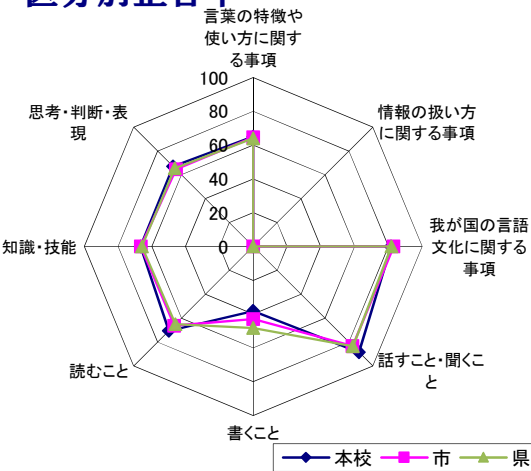
○●「将来の夢や目標をもっている。」「家の人と将来のことについて話すことがある。」の肯定的回答の割合は、ともに県の平均を上回っている。一方で、各教科の学習が将来のために大切だと思うかの肯定的回答の割合は、国語・社会・算数・理科・総合の全てにおいて85%以上ではあるものの、県の平均は下回っている。今後は授業の振り返りの時間などを活用し、学んだことをどのように生活の中で活かせるのかを考えさせ、今後の将来のために児童自らが進んで学んでいく姿勢を養っていく。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」の肯定的回答の割合は、県の平均を下回っている。授業の中で、例文を示したり、大切なキーワードを挙げその言葉を入れて文章を書かせたりと、書くことへの抵抗を減らしながら、文章にまとめる機会を設けていく。

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	65.1	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化にに関する事項	81.6	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	88.5	83.3	83.4
	書くこと	38.2	42.8	48.2
	読むこと	70.7	66.1	65.1
観点	知識・技能	66.7	66.5	65.9
	思考・判断・表現	67.0	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

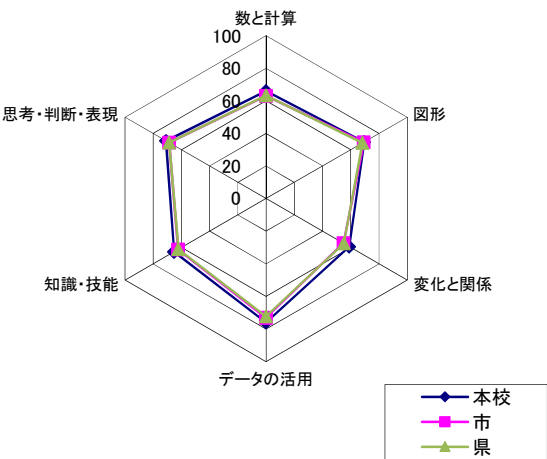
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。 ○第4学年までに配当されている漢字を正しく書くことができるかどうかをみる設問の平均正答率は65.3%で、県の平均正答率を8.1ポイント上回っている。 ●熟語の漢字の組み合わせを理解して、熟語の意味を捉えることができるかどうかをみる設問の平均正答率は31.6%で、県の平均正答率を6.9ポイント下回っている。	・家庭学習で漢字練習に取り組む際、同じ熟語で1行の練習をするのではなく、その漢字を使った熟語を自分で選択しながら練習したり、短文に取り入れながら練習したりするなど、工夫して取り組めるようにする。 ・読書を推進することで、活字に触れる機会を増やし、熟語に親しめるようにする。
情報の扱い方にに関する事項		
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、県の平均正答率よりほぼ同じである。 ●ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることができるかどうかをみる設問の平均正答率は81.6%で、県の平均正答率を0.3ポイント下回っている。	・辞典や1人1台端末を用いてことわざの意味を調べたり、それらを使って文章を書いたりするなどして、身近にことわざを取り入れる機会を設ける。 ・自分のお気に入りのことわざを定期的に掲示することで、習慣的にことわざに触れる機会を設ける。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、県の平均正答率より高い。 ○司会の役割を果たしながら話し合い、参加者の発言を基に、考えをまとめることができるかどうかをみる設問の平均正答率は86.8%で、県の平均正答率を9.5ポイント上回っている。 ●話し合いの目的を確認し、意見の共通点や相違点に着目しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる設問の平均正答率は84.2%で、県の平均正答率を0.7ポイント下回っている。	・聞くときのポイントを整理して、話の要点のみを短い言葉でメモすることができるようにする。また、そのような機会を日常生活の中で取り組む機会を設けていく。 ・話し合いを行う際には、自分の考えと友達の見解との共通点や相違点に着目するなど聞くときの視点を示すことで、互いの考えのよさに気づき、考えを深め合えるようにする。また、話し合いの後には振り返りも含めて、再度自分の考えをまとめる時間を設けていく。
書くこと	平均正答率は、県の平均正答率より低い。 ●指定された長さで文章を書くことができるかどうかをみる設問の平均正答率は43.4%で、県の平均正答率を13.2ポイント下回っている。 ●内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書くことができるかどうかをみる設問の平均正答率は40.8%で、県の平均正答率を11.5ポイント下回っている。	・作文の際には、条件を明確に示し、文章の内容を整理しながら書くことができるようにしていく。さらに得意な児童には、教科書の見本を見ないで書くことも勧めていく。また、書いた文章を児童同士で読み合う機会を設け、提示された条件を満たしているのかを確認し、修正できるようにしていく。
読むこと	平均正答率は、県の平均正答率より高い。 ○場面の様子について、発信者を捉えることができるかどうかをみる設問の平均正答率は73.7%で、県の平均正答率を10.8ポイント上回っている。 ○叙述を基に指示語の内容を捉えることができるかどうかをみる設問の平均正答率は85.5%で、県の平均正答率を7.8ポイント上回っている。	・説明文の内容を読み取り、序論、本論、結論に分けたり、要約したりする活動を設けていく。 ・おすすめの本を紹介する活動を意図的に設けたり、朝の読書の時間を確保したりして読書活動の推進を図ることで、文章を読み、物語の登場人物の心情を叙述に基づいて読み取れるようにする。

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.0	63.0	63.3
	図形	69.5	69.2	68.3
	変化と関係	58.9	54.8	55.0
	データの活用	76.0	73.1	72.3
観点	知識・技能	65.2	62.3	62.1
	思考・判断・表現	71.0	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

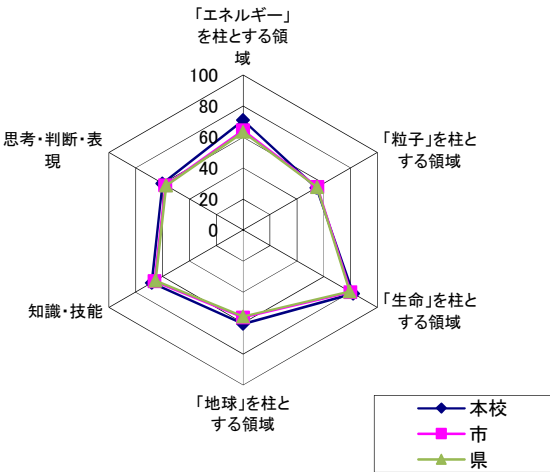
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。 ○数直線上の目盛りが示す分数を読み取り、仮分数で表す設問の平均正答率は61.0%で、県の平均正答率を12.2ポイント上回っている。 ○概数について理解し、目的に応じて見積もる設問の平均正答率は81.8%で、県の平均正答率を9ポイント上回っている。 ●2けた÷2けたの計算の平均正答率は62.3%で県の平均正答率を2.6ポイント下回っている。	・わり算に課題が見られたことから、除数が2位数になっても既習の手順と変わりがないことや、仮商の立て方や修正について、既習事項を丁寧に振り返りながら指導を進める。また、家庭学習でも問題演習に取り組めるように課題を用意する。
図形	平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。 ○三角定規を組み合わせでできた角の大きさを求める式を立てる設問の平均正答率は74.0%で、県の平均正答率を3.3ポイント上回っている。 ○ものの位置の表し方を理解し、もとにする位置を考える設問の平均正答率は71.4%で、県の平均正答率を8.8ポイント上回っている。 ●立体の構成要素から立体を見分ける設問の平均正答率は83.1%で、県の平均正答率を2.8ポイント下回っている。	・立体の構成要素について課題が見られたことから、具体物などを用いて視覚的に捉えられるようにする。また、図形を構成する要素や要素間の関係についての規則性も理解できるよう指導する。
変化と関係	平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。 ○割合が基準量の何倍かで求められることを理解しているかどうかをみる設問の平均正答率は48.1%で、県の平均正答率を8.3ポイント上回っている。 ○表を縦にみることで伴って変わる2つの数量の関係を読み取る設問の平均正答率は83.1%で、県の平均正答率を8.7ポイント上回っている。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す設問の平均正答率は45.5%で、県の平均正答率を5.3ポイント下回っている。	・伴って変わる数量については、具体的な場面を設定し数の変わり方の法則に着目した指導を継続して行っていく。また、式に数値を当てはめてみるなどして立式について検証し実際の場面と式を結び付けて考える活動を取り入れていく。
データの活用	平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。 ○折れ線グラフの特徴を理解し、傾きから変わり方を読み取る設問の平均正答率は76.6%で、県の平均正答率を5.3ポイント上回っている。 ○2次元の表の空欄に当てはまる人数を答える設問の平均正答率は79.2%で、県の平均正答率を6.9ポイント上回っている。	・児童の実態に合わせて、他教科との関連を図り、様々な表についての内容を多角的に理解できるようにする。 ・他領域の設問より正答率が高いことから、児童の肯定的感情を育てながら継続的に指導していく。

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	70.8	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	54.4	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	82.0	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	60.6	56.4	55.8
観点	知識・技能	68.1	66.0	65.3
	思考・判断・表現	60.1	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均正答率より高い。 ○「電流の働き」では、全ての設問で県の平均正答率を上回っている。特に直列つなぎの語句を問う設問の平均正答率は79.2%で、県の平均正答率を11.9ポイント上回っている。	・単元内それぞれの実験や結果を関連付けて指導することを意識し、単元全体の理解を深められるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均正答率とほぼ同じである。 ○「水のすがた」の、水を冷やしたときの温度変化についての設問の平均正答率は68.8%で、県の平均を11.9ポイント上回っている。 ●「ものの温まり方」の、金属のあたたまり方についての設問の平均正答率は74.0%で、県の平均正答率を5.9ポイント下回っている。	・学習した内容と身近な現象とを関連付けて考えさせたり、考察を自分の言葉で書かせたりして、学習した内容の理解が深まるようにする。 ・実験の予想や結果を記述させる活動を積極的に取り入れることで、論理的に思考する力を身に付けさせていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。 ○「ヒトの体のつくりと運動」の、骨の働きに関する設問の平均正答率は50.7%で、県の平均正答率を8.7ポイント上回っている。 ●「季節と生き物」の、動物の越冬についての考察を問う設問の平均正答率は85.7%で、県の平均正答率を1.6ポイント下回っている。	・学習した内容と身近な事象とを関連付けて考えさせたり、自分の経験を振り返らせたりして、内容の理解が深まるようにする。 ・考察やまとめの際に、理科の見方・考え方を考える際に必要な言葉や理科の用語を教師が意識し、児童の言語活動の充実を図る。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は、県の平均正答率よりやや高い。 ○「天気と1日の気温」の、1日の気温の変化を問う設問の平均正答率は53.3%で、県の平均正答率を10.7ポイント上回っている。 ●「水のすがた」の、蒸発の語句を問う設問の平均正答率は59.7%で、県の平均正答率を1.6ポイント下回っている。	・考察する時間を十分に確保し、自分の言葉で書くことができるようにすることで、学習した内容の理解が深まるようにする。 ・身近な自然現象や天気予報の話題を提示し、疑問に思ったり解決したい課題を見付けたりする手掛かりとすることで、学習への意欲や理解の定着につなげていく。

宇都宮市立岡本北小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「グループなどでの話し合いに自分から進んで取り組んでいる」の肯定的回答の割合は82.6%と県の平均をやや上回っている。引き続き児童の興味、関心をたかめられる課題設定や教材等の工夫をし、主体的・対話的な学びを促せるようにしていく。

○「しょう来のゆめや目標をもっている」の肯定的回答の割合は93.8%と県の平均を上回っている。引き続き、今の自分が将来に繋がっていくことを意識させながら授業や学校生活の様々な時間を活用し、活動に取り組ませていく。また、目標を立てさせ活動に取り組むことで、より意欲的に学校生活を送ることのできるようにする。

○「自分には、よいところがあると思う」の肯定的回答の割合は83.8%と県の平均とほぼ同じである。また、「自分はクラスの人役に立っていると思う」の肯定的割合は73.8%と県の平均を上回っている。この結果から、自己肯定感をもち、学校生活の中で自己有用感を感じている児童が多い様子がうかがえる。学習や行事等の振り返りの中で、友達のよいところを発表したりアドバイスタイムを設けて認め合えるような場の設定をしたりする等、引き続き支援の工夫を図っていく。

○●「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的回答の割合は75.0%と県の平均と同じである。引き続き家庭学習の習慣化と充実を図り、宿題への意欲や取り組む意義を感じられるよう、内容を工夫したり児童の頑張りを称賛したりしていく。

○●「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の肯定的回答の割合は81.3%と県の平均とほぼ同じである。引き続き、授業や学校生活の様々な時間を活用し、一人で課題に対しての解決時間を確保した上で、友達との交流や話し合い活動に進むよう、場の設定を工夫していく。また、児童が主体的に課題に取り組んでいる際には称賛していく。

●「国語の学習は好きですか」の肯定的回答の割合は66.3%、「国語の学習はしょう来的のために大切だと思いますか」の肯定的回答の割合は93.8%とどちらも県の平均をやや下回っている。引き続き、児童の興味・関心が高まるような課題設定や、授業展開の工夫、分かる授業の実践を行っていく。

宇都宮市立岡本北小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学業指導の充実と「宇都宮モデル」を踏まえた授業実践、及び創意工夫した家庭学習の習慣化	学びに向かう集団づくりと児童が意欲的に取り組む授業づくりの双方を関連させて指導を進めると共に、宇都宮モデルを活用した授業や単元展開の工夫を通して、学級経営力と授業力の向上を図っている。 家庭学習を必須の課題と自主学習の二本立てとし、基本的な学力の定着と家庭学習の習慣化、学習意欲の向上を図れるようにしている。	学業指導、及び「授業の中で目標がしめされている」等、宇都宮モデルの授業実践に係る設問への肯定的回答の割合は、県の平均を上回ったものが多い。各教科の調査結果についても、県や市の平均を上回った領域・観点が多く見られた。 学年間のばらつきはあるものの「家でテストで間違えた問題について勉強している」や「家で宿題の他に自分で考えた勉強をしている」等、家庭学習に関する設問について県や市の平均を上回る項目が見られる。引き続き、学力の定着と家庭学習の習慣化が図れるよう、児童の頑張りを称賛し、意欲の向上が図れるようにしていく。
主体的に学び考えを広げ深める児童、協働的な態度の育成を目指した授業づくり	児童が主体的に取り組める課題を設定し、各教科のねらいを達成に向けて、グループや学級全体での協働的な話し合いを取り入れた授業づくりを進めている。 振り返りの時間を充実させ、学習を自己調整し、学びを次の学習に繋げ、生かすことのできる児童の育成に努めている。	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」や「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」への肯定的回答は、県の平均を上回っている。児童が安心して話し合いに参加し、学びの充実感を得られる機会が増えている様子がうかがえる。 「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定的回答は、県の平均を上回っている。引き続き、児童が自らの学びを次の学習や生活に生かしていけるよう、振り返りの時間の充実を図れるようにしていく。
1人1台端末、ICTを活用した授業展開の工夫や地域の教育資源や教育力を有効活用した学習指導の充実	タブレット端末の日常的な利用を推進すると共に、「リアル」と「デジタル」のベストミックスされた学習活動の実現を目指し、活用方法についての情報交換と改善を図りながら、児童の学びの充実に生かせるようにしている。	「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」や「分からない国名や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」等への肯定的回答は、県の平均を上回っている。引き続き、タブレット端末の調べ学習のツールとしての利用や図書資料の活用等について、工夫を図れるようにしていく。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎基本の定着及び活用力の向上を目指した学習活動の工夫	各教科のねらいの達成に向けた話し合い活動の工夫	ねらいの達成に向けた効果的な話し合い活動を展開できるよう、話し合いの目的を明確にしたり話し合いを通して学んだことを確かめたりするなど、友達と話し合うよさを感じながら学習課題の解決を図れるようにする。